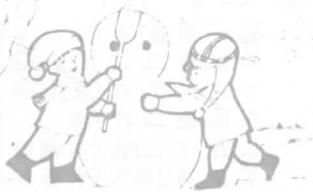




会報



DISTRICT 253
CLUB BULLETIN

創立 S34.6.9 承認 S34.6.27

鶴岡ロータリー

THE ROTARY CLUB
OF TSURUOKA

雪 だ る ま

例会場 鶴岡市馬場町 物産館3階ホール
例会日 毎週火曜日 12:30 - 13:30
事務所 鶴岡市馬場町 商工会議所内
電話 0235 5775

会 長 上 野 三 郎
幹 事 佐 藤 順 治

全人類を 結びつけるために 奉仕せよ
SERVE TO UNITE MANKIND

W. ジャック・テービス
1977~78 国際ロータリー会長

第 944 号 1978. 2. 7 (火) (雪) No.31

本日のプログラム

1. 点 鐘
 2. 国歌 斉唱
 3. ロータリーソング (手に手つないで)
 4. ビジター紹介
 5. 新入会員の入会式
新入会員の紹介
御 挨拶 新入会員 石黒慶之助君
渡会正三君
親睦活動委員会
 6. 会員及び奥様誕生祝
 7. 年間皆出席者表彰
 8. 会長報告
 9. 幹事報告
 10. 家族会について
 11. 台中港区訪問団について
 12. 会員スピーチ 自然と人生
 13. 出席報告
 14. 点 鐘
- 安藤定助君
嶺岸光吉君
佐藤伊和治君
石川寿男君

■ ビジター紹介

滝 禅 源 君(仏 教) 立川R.C
竹田 哲 郎 君(計量器具販売) 関 博 君(金物販売) 酒田 R.C
本間 留 芳 君(食料品販売) 温海R.C
八幡 慶二君(建 築) 半田 茂 弥 君(石油販売)
上野 十九治君(空 調 設 備) 斎 藤 吉 一 君(管材販売)
半田 勇三郎君(生 命 保 険) 羽根田 正 吉 君(建 設 業) } 鶴岡西 R.C
矢尾板 章 君(養 蜂)

■ 新入会員の入会式

渡会正三君

職 業：国立鶴岡高等工業専門学校長

出身地：鶴岡市大山 渡会酒造本店“出羽の雪” 出身校 東京帝大工学部

家 族：奥様(芳さん)は矢馳の木村九兵衛氏の長女で、紹介者 石黒君の奥様と従姉
長男 一郎さん 大日本印刷勤務、次男 次郎さん 山形大学医学部で講師

趣 味：若い人と雑談すること、謡曲(宝生流)

■ スマイル

阿部 公一君 山形県旅館環境衛生協同組合に15年の長きに亘り常務理事に就任、引続き
相談役として活躍され表彰されました。

早坂源四郎君 ロータリーの友2月号ロータリー誕生の契機と時期に回答されました。

■ 会員及び奥様誕生

会員誕生 早坂徳治君、斎藤得四郎君、笹原桂一君、谷口晴敏君、内山喜一君

奥様誕生 半田節様(浩)、海東幸子様(与蔵)、小野寺桃枝様(清)、佐藤鶴子様(友吉)

■ 年間皆出席表彰

9年間皆出席 三井 健 君
8年間皆出席 小池 繁 治 君
5年間皆出席 佐藤 友 吉 君、佐藤 衛 君、中野 清 吾 君、吉野 勲 君
1年間皆出席 内山 喜 一 君
1月 125 % 黒谷 正 夫 君
1月 100 % 5 6 名

■ 会長報告

1. 本日は、去る1月24日雑誌週間の例会でお願いしていた 雑誌委員 佐藤伊和治会員のスピーチを変更して本日伺うことにいたしました。
2. かねて入会の手続きをすすめていた渡会正三さんが、所定の手続きを終えて、2月1日で入会が決定いたしました。後程推せん者の石黒君に御紹介いただきます。なお渡会君の所属委員会は先程の理事会でインターアクト委員会と決めました。
3. 去る2月3日、西ロータリークラブのタラ汁会が湯之浜竹屋ホテルで開かれ、会長・幹事が招かれて出席しました。猛吹雪の中でしたが、大変和やかで賑やかな会でした。
4. R.I.ニュース1月号によりますと、1977年規定審議会の決定は、クラブ投票の結果、すべて支持されたということです。新しい規定に基づいた標準クラブ定款と細則はコピーして近々全会員に配付いたしますので、今後はこの新しい定款細則を用いられるようお願いいたします。

■ 幹事報告

1. 会報到着
(1) 東京R.C (2) 本荘R.C (3) 酒田R.C
2. 「駐在所の奥さん日記」紹介
3. 第345地区大会の第17周年記念誌の紹介

■ 会員スピーチ 自然と人生

佐藤伊和治君

私は81才をこした数えて83才、今更ここに立ってスピーチする柄ではない老人のたわごとでしょう。

駿馬も老いては驚馬にも劣る
生来の驚馬老いて何になるや
善いかな生来の驚馬悠々たり
閑々たり広野に草を食む

ある詩人の詩の一節であります。僕が生来の驚馬が老人となったことには違いないが、悠々たり、閑々たりの心境には道甚だ遠しであります。僕は最上川端の小さな農村の一部落の農家の8人兄弟の3男坊である。

小学校1年生の時、水泳を最上川でひとりでに覚えた。4年生の時には最上川を向う岸まで泳ぎ切った。少年時代の相手は最上川と川向かいの「あららぎ山」であった。そして数少ない少年達もただそれだけだった。

私の部落は全部農家だから1頭か2頭の馬を飼っていた。今は馬は一頭もない。全部車にかわった。『馬屋の戸をひねもすたく春の風』少年の頃を想う僕の句である。学校から帰ると友達と馬に乗って川原を、そして山々を乗り廻した。或る日、山の林の中に馬を休めていたところ小鳥がさかんに囀った。その美しさが今もありありと心底に刻みついて消えようともしない。

青年となって上京し、クライスラーのバイオリンの音の美しさに惚れ込んで何回も聞きに行ったが、このことは少年時代の山の小鳥の音と関係があると思う。チンバリストはクライスラーよりは劣るとも独断したりした。

皆んな家で小さな舟を持っていたから僕達は手製で箆の帆を作って、西風の強い日には逆白波の立つ最上川をこの箆帆の力で川を上った。10km上流の古口という町あたりまで行った。勿論上陸などはしないですぐ下った。そして道行く人に大声で口喧嘩しながら実に愉快であった。

最上川で歌った歌は古くは西行、芭蕉をはじめとし、近くは齋藤茂吉などいくつあるか知らないが、尤も古いのは古今集にある『最上川のぼれば下る稲舟のいなにはあらずこの月ばかり』読み人知らずだと思う。汽車も自動車もない頃の最上川は長い年月、交通運輸の唯一つの機関であつたらしい。だから僕は稲を積んだ舟と月の風景の歌と受けとっていたところが、茂吉は単なる風景とは解釈していない。これは若き男女の性愛を歌ったといっている。女が今夜は駄目だ月のものであるからと求愛を拒否したと解釈している。でも最上川の歌には相違ない。僕は今でも単に最上川の稲舟に月が出て来た美しい風景の生活の歌と解釈している。僕は3人の友達と一緒に雪どけの濁流の只中に放り出されたことが2回ある。でも奇跡と言わんか3人とも助かった。青年となって上京してからロシア文学を愛読したころツルヂネの獵人日記も一気に読み通したが、ロシア貴族の生活とは全然違ったものだと感じた。僕の少年の頃は全く自然にとけ込んだ育い立ちだった。勉強せよ、などとは誰にも言われたことはない、最も楽しかった時代だったし、僕の性格はこの辺で定着したと考えている。

昭和7年に仏教の実践を目的として青年教育と公共福祉のために、当時としては莫大な

資金を投じて財団法人克念社と又同じ精神で営利事業会社を創設するから2年間手伝わんか」と話しかけられた。僕は感激してなにかも捨て承諾した。僕は最上川の激流をさかのぼる精神で努力を尽して為し遂げた。勿論僕一人の力ではなく多くの方々の力をお借りしました。僕がこの鶴岡に定住する動機であった。

この2つの事業の創設は仏教の実践を目的としたものだから、仏教の研究は当然の仕事となった。私も私なりに勉強はしたつもりだが、私には仏教を語る力はない。今ではその時間もない。唯、釈尊は少なくとも東洋思想の最高峰の一つであることは確かだと今でも固く信じている。釈尊は凡そ西暦前5世紀の中頃ルンビニーという処で生れたと伝えられている。ルンビニーは現在はネパール領になっておりヒマラヤの麓にあり、仏伝によると花が咲き鳥が囀り非常に美しい園林であったと伝えられているが、現在は2千数百年の年月を経たためか茫漠たる荒地となっているようだ。釈尊は東洋思想の最高峰、そしてその人の誕生地ルンビニーは世界の最高峰ヒマラヤ山系エベレストの麓であること、この出会い、この偉大なる人物とこの偉大なる大自然との関係を説明している人は私は聞いたことも読んだこともない。『自然を離れて人生なし』この両者には大関係があると私は信じている。釈尊は29才で出家し6年間修行して35才で悟りを開いて仏僧になられた。

中村元先生は次に説いている『仏僧とは悟れる人のことであり、如来とは悟りを体験した人』45年間説教を続けて80才で逝去した。その最後の言葉は『汝等努力せよ』の一語であったと言う。この偉大なる釈尊がエベレスト山系の麓で生れ育った、ここに深い関係がないと誰が言えようか。究極するところ悟りとは即ち物心一如の思想の発見、釈尊はヒマラヤの大自然なりに教えられたのではないか、物と心、自然と人生、古くして全く新しい重大な物心一如、自己と他己は一という真理の発見は釈尊とヒマラヤ山系のエベレストとの立会いは大関係があると私は思う。

昨年12月24日前国土庁長官田沢吉郎氏が第三次全国土総合開発計画(三全総)と東北開発と演頭で演説していたが、第一次も第二次も自然を軽視した開発だから失敗だった。瀬戸海を赤潮で汚染するような開発はもう許されない。三全総は東北と北海道以外にない。これには240兆円かけると言っていた。今や宇宙大気汚染を心配される時代になった。不況インフレ、失業、世界中大問題になっているが、原因は物心一如、物と心、自然と人生自分と他人の関係がバラバラになっていては解決は出来ないと思っている。だから釈尊にかえれ、物心一如、人の自然、自己と他己は一つのものだと英智真理を全人類が実践することに努力しなければならぬ解決は出来ない。

出席報告

| | | | | |
|-------|-----|--------|-----|---|
| 本日の出席 | 会員数 | 69名 | 欠席者 | 阿部(襄)君、五十嵐(三)君、石川君、板垣(俊)君、玉城君、風間君、黒谷君、石倉君、三井(健)君、三浦君、森田君、中江君、津田君、諸橋君、金沢君、佐藤(元)君 |
| | 出席数 | 53名 | | |
| | 出席率 | 76.81% | | |

| | | | | |
|-------|-------|--------|--------|-------------------------------------|
| 前回の出席 | 前回出席率 | 89.71% | マークアップ | 佐藤(友)君、内山君、鈴木(弥)君、高橋(良)君、吉野君一鶴岡西R.C |
| | 修正出席数 | 66名 | | |
| | 確定出席率 | 97.06% | | |